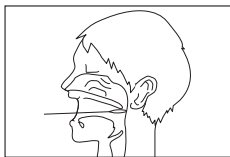
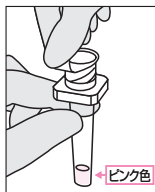


■ 検体採取 咽頭ぬぐい液



試薬1：亜硝酸ナトリウム溶液 [ピンク色]
 試薬2：酢酸溶液（無色）
 抽出試薬：試薬1 1本に対して試薬2を
5滴加えたもの [淡黄色]

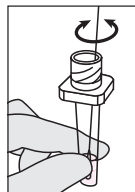
■ 試料調製



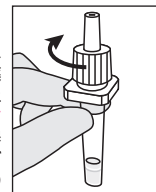
試薬1の容器のアルミシールを液が飛び散らないように剥がします。



試薬1に対して試薬2を**5滴**加え抽出試薬とします。

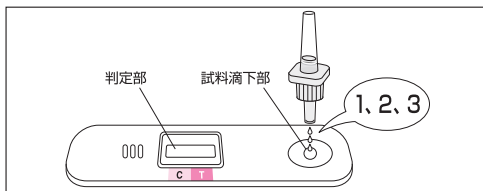


検体採取後のスワブを抽出試薬に浸し、2回以上回転させ、**1分間静置**後、容器の外側からスワブの頭部をしっかりとつまみ、しごく様にスワブを引き抜き、試料とします。



調製した試料が入っている容器の上端に付属のノズルを被せてしっかりと閉めます。

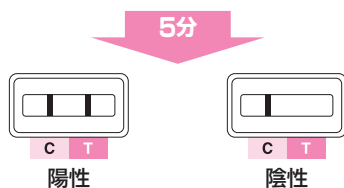
■ 試料滴下



調製した試料が入っている容器の中ほどをつまみ、テストプレートの試料滴下部に試料**3滴**（**80 μ L**~**120 μ L**）を滴下します。

注意
 テストプレートは開封後すぐに使用してください。

■ 判定



■ 注意事項

- ① 調製後の抽出試薬は保管できません。直ちにご使用ください。
- ② 試料を滴下するとき、容器は垂直に保持し、ノズルの先端が試料滴下部に触れないよう注意してください。
- ③ テストラインは、ラインの濃淡にかかわらず、目視で確認できれば陽性です。
- ④ ラインは色分けにより区分されている各判定部内であれば、その位置にかかわらず有効です。
- ⑤ 抗原量が非常に多い場合には、新しい抽出試薬1本に対して試料を3滴滴下し、希釈調製したものを試料としてください。
- ⑥ 静置時間が十分でない場合、抗原の抽出が不十分となり、正しい結果が得られないことがあります。